

住化クレマート®U粒剤

■種類名：ブタミホス粒剤
 ■有効成分：ブタミホス-----3.0%
 ■除草剤分類：3

■登録番号：第14649号（住友化学登録）
 ■毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）
 ■登録初年：1981.07.24
 ■性状：灰白色細粒
 ■有効年限：3年
 ■包装：3kg×8袋

【特長】

- メヒシバなどイネ科雑草に高いを示す土壌処理剤。
- 雑草発生前に散布することにより高い効果を発揮する。
- 様々な野菜に使用可能で、使いやすい畑作園芸用除草剤。

【適用内容】（2026年4月末日現在）

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	7°タ叔を含む農薬の総使用回数		
たまねぎ	一年生雑草	春播栽培の定植後(雑草発生前) 但し収穫 60 日前まで	5~7kg/10a	1回	全面土壌散布	1回		
すいか 漬物用すいか メロン 漬物用メロン		秋播栽培の定植後又は 春季の雑草発生前 但し収穫 60 日前まで	4~6kg/10a					
キャベツ		定植・マルチ前 (雑草発生前)						
トマト		定植前~定植直後 (雑草発生前)			畦間株間 土壌散布			
ねぎ わけぎ あさつき		定植活着後(雑草発生前) 但し定植 10 日後まで	5~6kg/10a		全面土壌 散布			
やまのいも さといも にんにく		植付後萌芽前(雑草発生前)						
ばれいしょ らっかせい にんじん		は種後発芽前(雑草発生前)						
パセリ		一年生 広葉雑草	植付後又は培土後(雑草発生前) 但し収穫 120 日前まで		4~6kg/10a		1回	全面土壌 散布
こんにゃく		挿苗後(雑草発生前) 挿苗 3 日後まで						
かんしょ		定植後(雑草発生前) 但し定植 10 日後まで						
にら	定植前(雑草発生前)	5kg/10a	畦間株間 土壌散布					
きゅうり	定植後(雑草発生前) 但し定植 10 日後まで							
くわい せり	植付後出芽前(雑草発生前)							
やまのいも (むかご)	親株養成期(雑草発生前)	3~5kg/10a	湛水散布					
きく	植付後萌芽前(雑草発生前)	4kg/10a						
つつじ類 さざんか	定植後(雑草発生前)	4~6kg/10a						
桑	植付後又は生育期(雑草発生前)	4~6kg/10a	3回 以内	全面土壌 散布		3回 以内		
たばこ (折衷マルチ栽培)	春季桑発芽前および 夏季収穫後発芽前(雑草発生前)	8~10kg/10a	2回 以内		2回 以内			
	植付 10 日前まで (雑草発生前)	4kg/10a	1回		1回			

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 本剤は雑草発生前処理の効果は大きいが既発生の雑草には効果が劣るので、必ず雑草発生前に全面に均一に散布すること。
- 多年生雑草およびキク科雑草およびツユクサには効果が劣るので、それらが優占する圃場での使用はさけること。
- 土壌が極度に乾燥している場合は効果が劣るので土壌が適度の水分を含んでいる時に使用すること。
- こんにやく、らっかせい、かんしよ等を使用する場合は、とくに砕土、整地、覆土は、ていねいに行行って均一に散布すること。
- 作物の生育中に散布する際は、できるだけ薬剤が作物にかからないように注意すること。
- 桑に使用する場合、桑葉にかかると薬害を生じるので、給桑葉のない春季又は夏季収穫後の桑の発芽前に散布すること。
- たばこに使用する場合、薬害を生じることがあるので、植付時に処理土壌が茎葉に接触しないように注意すること。またトンネル栽培および改良畦面栽培では使用しないこと。
- キャベツの定植直後に使用する場合、次の注意を守ること。
 - ◆ 降雨または朝露等により葉面が濡れている状態では使用しないこと。
 - ◆ 極端な深植えでは使用しないこと。
- くわい、せりに使用する場合、砂質土壌の水田や漏水田（減水深2cm/日以上）への使用はさけること。また、散布後少なくとも7日間はそのまま湛水状態を保ち、落水、かけ流しはしないこと。
- 散布の際、付近の他の作物にかからないように注意すること。
- 本剤の使用にあたっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤食などのないよう注意すること。

誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- ❖ 本剤による中毒の治療法としては動物実験で硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤の併用投与が有効であると報告されている。
- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。

また、粉末を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は直ちに身体を石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養殖池周辺での使用はさけること。

水産動植物(甲殻類、藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
散布後は水管理に注意すること。
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。